

## 郡山ユースカウンスル 2026 開催結果

| テーマ                                               | 提言要旨                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|---------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| A グループ<br>「みんなが楽しく参加できて、成長できる授業」                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 郡山市立学校全体で話し合いの活動を増やすために、「学校教育推進構想」に授業の中で話し合いの機会や場をより多く設けるよう記載してもらう。</li> <li>● 「みんなが理解できる授業」の実現のために、市教育委員会と一緒に体験授業を企画したり、特別講師を招く機会をもっと増やしてほしい。</li> </ul>                                                                                                               |
| B グループ<br>「AI と共に生きるための教育」                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>● AI の専門家を呼び、実際に AI を使って会話をするなどの体験をするとともに正しい使用法について教授してもらいたい。</li> <li>● AI に関する情報をすぐに調べられるように、学校図書室に AI に関する本やコーナーを設けてほしい。</li> </ul>                                                                                                                                    |
| C グループ<br>「安心できる人間関係」                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 他者の気持ちに寄り添ったり自分の行動を省みたりすることができるように、心の専門の先生の話聞く機会がほしい。</li> <li>● 注意するだけでなく、児童自身に考えさせる指導をしてほしい。また、そのような指導をしてもらえるように会議や研修などで各学校の先生に周知してほしい。</li> <li>● 気軽に相談できるように、匿名で相談できる環境や、利用者の声を聞けるような掲示板を作成してほしい。</li> </ul>                                                        |
| D グループ<br>「みんなが過ごしやすい学校～学校施設で安全と快適を～」             | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 障がい者の人も健常者の人も安全かつ快適に過ごせるように、階段をエレベーターもしくはエスカレーターにしたり、段差を無くして広いトイレを作ったりしてほしい。</li> <li>● 悩みを一人で抱え込むことがなくなるように、相談室を多く作っていつでも相談できる環境を整えてほしい。</li> <li>● 災害に強い学校とするために、本格的な避難訓練をより多く実施したり、防災設備の点検回数を増やしたりしてほしい。</li> </ul>                                                  |
| E グループ<br>「運動・遊び・健康の環境づくり（校庭・遊具・プール・雨の日の遊び場確保など）」 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 季節や天候を気にせずプールに入れるように、水温調節機能を備えた屋内プールを建設してほしい（コスト面を考慮して、4，5校が一度に使える規模としてほしい）。</li> <li>● 熱中症対策としてウォーターサーバーを設置してほしい。</li> <li>● 遊具の一部分を金属ではなく熱が伝わりづらい素材にしてほしい（コスト面を考慮し、持ち手部分だけなど）。</li> <li>● 遊具に水をかけて冷やすことができるように、水を弾く素材にしてほしい。</li> <li>● 遊具がある場所に屋根をつけてほしい。</li> </ul> |
| F グループ<br>「学校同士の交流について」                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>● イベントを実施すれば交流の機会が増えることから、交流の機会を創るためにイベントを実施してほしい（ただし授業の進行に支障が出ない範囲で）。</li> <li>● 交流の機会を創っても近隣小学校間の距離が遠いと移動が大変であるため、バスによる移動費を負担してほしい。</li> </ul>                                                                                                                          |

## 1. グループ一覧

### A グループ「みんなが楽しく参加できて、成長できる授業」

| No. | 学校名     | 氏名       |
|-----|---------|----------|
| 1   | 行健第二小学校 | 佐藤 侑さん   |
| 2   | 富田西小学校  | 佐藤 柊斗さん  |
| 3   | 桜小学校    | 高橋 陽彩さん  |
| ★   | 福島大学    | 佐久間 美羽さん |

### B グループ「AI と共に生きるための教育」

| No. | 学校名    | 氏名       |
|-----|--------|----------|
| 1   | 日和田小学校 | 國井 理仁さん  |
| 2   | 明健小学校  | 熊倉 美結さん  |
| 3   | 柴宮小学校  | 伊藤 健一郎さん |
| 4   | 金透小学校  | 多田 修太郎さん |
| ★   | 福島大学   | 阿部 友香さん  |

### C グループ「安心できる人間関係」

| No. | 学校名     | 氏名      |
|-----|---------|---------|
| 1   | 安積第一小学校 | 遠藤 文夏さん |
| 2   | 小山田小学校  | 荒川 凜香さん |
| 3   | 大成小学校   | 加藤 稜真さん |
| ★   | 福島大学    | 小林 瑚雪さん |

### D グループ「みんなが過ごしやすい学校～学校施設で安全と快適を～」

| No. | 学校名      | 氏名      |
|-----|----------|---------|
| 1   | 御代田小学校   | 川島 楓さん  |
| 2   | 小原田小学校   | 松本 心温さん |
| 3   | 緑ヶ丘第一小学校 | 金 秀斌さん  |
| ★   | 福島大学     | 伊東 里桜さん |

## E グループ「運動・遊び・健康の環境づくり（校庭・遊具・プール・雨の日の遊び場確保など）」

| No. | 学校名     | 氏名       |
|-----|---------|----------|
| 1   | 小泉小学校   | 橋本 幸明さん  |
| 2   | 片平小学校   | 丹野 真央人さん |
| 3   | 安子島小学校  | 矢吹 昂也さん  |
| 4   | 芳山小学校   | 安倍 元信さん  |
| 5   | 大島小学校   | 藤田 築さん   |
| 6   | 朝日が丘小学校 | 荒木 崇良さん  |
| ★   | 福島大学    | 棚橋 堇さん   |

## F グループ「学校同士の交流について」

| No. | 学校名     | 氏名      |
|-----|---------|---------|
| 1   | 安積第二小学校 | 星 翔太さん  |
| 2   | 多田野小学校  | 大橋 瑠菜さん |
| 3   | 守山小学校   | 渡邊 実李さん |
| 4   | 富田東小学校  | 小林 涼風さん |
| 5   | 御舘小学校   | 郡司 祐希さん |
| ★   | 福島大学    | 近藤 奏音さん |

★は大学生メンターの皆さん

## 2. 開催内容

### (1) 教育長挨拶・導入・グループ決定（1日目）

教育長からの主催者挨拶の後、導入として、モデレーターの福島大学 人間発達文化学類 坂本 篤史 教授から全体の流れ、ワークショップでの話し合いの方法とポイント、そしてグループ発表の方法について説明をいただきました。

昨年度は事前に提出いただいた課題シートの内容により事前にテーマ及びグループを決定しました。今年度は事前にテーマを大きく6つに分け、開催当日にその6つの中から興味関心のあるテーマを参加児童自身に選んでいただき、グループ分けを行いました。



## (2) アイスブレイク

グループ内自己紹介の後、大学生メンターさんの企画で、アイスブレイクを実施しました。ジェスチャーを用いた自己紹介で大いに盛り上がった後は、自己紹介を基に共通点探しをしました。

アイスブレイクが行われる前は緊張もあってか表情が硬いようにも見受けられましたが、アイスブレイク後は笑顔が見られたり、明るく元気に会話する様子も見られたりしました。



## (3) ワークショップ（1日目～2日目）

参加児童が各グループで問題意識を共有しながらテーマを決定し、各テーマについて「①郡山市や学校のいいところ」「②郡山市や学校の良くしたいところ」そして「③郡山市に提言したいこと」を話し合いました。

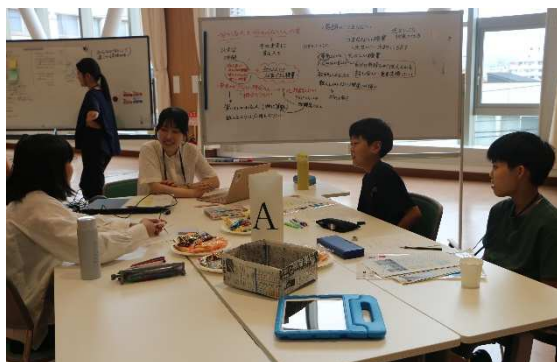
【各グループのテーマ】

- A グループ「みんなが楽しく参加できて、成長できる授業」
- B グループ「AI と共に生きるための教育」
- C グループ「安心できる人間関係」
- D グループ「みんなが過ごしやすい学校～学校施設で安全と快適を～」
- E グループ「運動・遊び・健康の環境づくり（校庭・遊具・プール・雨の日の遊び場確保など）」
- F グループ「学校同士の交流について」



各小学校の状況やそれぞれの問題意識、意見や希望等をグループ内で議論・共有し、グループ発表に向け、グループとしての意見をまとめていきました。各グループで様々な疑問や課題が出ましたが、大学生メンターさんのサポート、モデレーターの坂本先生のアドバイスにより、一つ一つクリアしながらグループ発表に向け、準備を進めました。

また、今年度は1日目の様子を市長に御覧いただきました。時折笑顔を見せながら、児童と大学生メンターが真剣に議論している光景に熱心に見入っているようでした。



A グループ



B グループ



C グループ



D グループ



E グループ



F グループ



市長の見学の様子

#### (4) グループ発表（2日目）

特別会議室に会場を移し、午前中は1日目に引き続き、ワークショップを実施、午後はグループ発表を行いました。教育長をはじめ、報道関係者、参加者の保護者、所属小学校関係者など多くの方に聴講いただきました。また、今年度は齊藤副市長にも御出席いただきました。



各グループの発表の後には質疑応答の時間も設け、市教育委員会から活発な質問や感想が出され、発表児童は自身の小学校の例を交えながら、しっかり受け答えをしていました。

グループ発表後、モデレーターの坂本先生から全体の講評、そして齊藤副市長並びに教育長からも感想と素晴らしい発表と提言に対し、御礼の言葉がありました。



グループ発表の様子



各グループの発表を終えた後は、代表して2名の児童に、齊藤副市長並びに教育長に提言書を提出していただきました。

齊藤副市長並びに教育長と向かい合い、児童は少し緊張しているように見受けられましたが、真っ直ぐ相手の目を見ながら提言書を提出する様子は堂々としたものでした。

提言書を提出した後は全体の写真撮影を行い、2日間に及んだユースカウンスルは閉会となりました。参加児童は親睦を深めて2日間を共にした仲間との別れを惜しみながらも、聴講していた保護者が迎えに来るとワークショップ中とはまた違った表情を見せて会場を後にしていく姿が印象的でした。

### 3. 提言

#### (1) A グループ「みんなが楽しく参加できて、成長できる授業」

## わたしたちが考える未来の学校

- ・対話が多い・自分の気持ちが伝えられる授業になっている  
→ みんなの意見を取り入れられるから、できれば大人数（クラス全体）で話し合いたい  
教える・教えられるという関係ではなく、みんなで話し合って解決する間違えてもいいという雰囲気がある
- ・みんなが理解できる授業になっている  
→ 置いていかれる人が出ない授業  
分かる人とそうでない人とで差が出ない授業

## わたしたちからの提言①

対話が多い・自分の気持ちが伝えられる授業



市が出している「学校教育推進構想」に、授業の中で話し合いの機会や場をより多く設けるよう記載してもらおう

こうすると・・・郡山全体で話し合いの活動を増やせる

- ・顔をあわせてみんなで話すことで、難しい問題も解決できる
- ・発表が苦手な人も発言ができるから、発言することに慣れて、思いを伝えられるようになる
- ・分かる人もそうでない人も理解が深まる→ みんなが成長できる

## わたしたちからの提言②

みんなが理解できる授業



市といっしょに、体験授業を企画したい  
特別講師を呼ぶ機会をもっと増やしてほしい

- ・自分たちで決めることで、主体性・探究心が成長する
- ・実際のものを扱うことで、みんなが理解しやすくなる
- ・より楽しいし、やる気も出る→ みんなが楽しく参加できる

## わたしたちが考える未来の学校

### AIについて学校で学ぶことができる

- 子どもも先生もAIに対しての関心が高まる
- 知りたいと思ったときに自分から学べる環境
- 現在は学校ではAIに関してほとんど教わらないので、学校で時間をとって教えてもらえるような取り組みがされている

## 私たちからの提言①

### AIの専門家の話を聞く機会がほしい

学校に専門家を呼んで「AI活用教室」のような形でAIの正しい使用法について教えてもらい、実際にAIを使って会話を  
するなどの体験を通して、AIはどのようなものなのかを知るという時間を設けてほしい。

## 私たちからの提言②

### AIに関する本やコーナーを 学校の図書室に置いてほしい

自分からAIについて知りたいと思ったときにすぐ調べられる  
ような環境がほしい。また、AIの本を読むことをすすめるよ  
うなポスターを作るなどしてみんなに呼びかけてほしい。

### (3) C グループ「安心できる人間関係」

## わたしたちが考える未来の学校

- ①人間関係に悩まない
- ②悩みがあってもすぐに相談できる

#### わたしたちからの提言①

心の専門の先生の話聞く機会がほしい

→話を聞くことで、ほかの人の気持ちに寄り添えるようになる

自分の行動を振り返ることができるため、反省点が見つかり、今後の学校生活にいかすことができる

#### わたしたちからの提言②

児童自身に考えさせる指導をしてほしい

→注意するだけだとそのあとも繰り返してしまうため、してはいけない理由や改善の仕方を考える時間や機会を増やしてほしい

会議や研修で、児童自身が考えるような指導をしてもらえるように各学校の先生に伝えてほしい

#### わたしたちからの提言③

気軽に相談できる環境をもっと増やしてほしい

→現在、カウンセラーやSNSで相談するような取り組みはされているけど、相談しにくいと感じる人もいると思う

匿名で相談できる環境や、それらの機関の利用者の声を聞けるような掲示板を作成してほしい

## わたしたちが考える未来の学校

- ①障がい者の人も、健常者の人も安全かつ快適に過ごせる学校
- ②一人で悩みを抱える人がいない学校
- ③災害に強い学校



## わたしたちからの提言

- 〈①を実現するために〉
  - ・ 階段をエレベーター、エスカレーターにしたい
  - ・ 段差をなくして、広いトイレをつくりたい
- 〈②を実現するために〉
  - ・ 相談室を多くつくり、いつでも相談ができるようにしたい
- 〈③を実現するために〉
  - ・ 本格的な避難訓練を現在より多く実施するようにしてほしい
  - ・ 防犯設備の点検をより定期的に行ってほしい

## 追加の説明

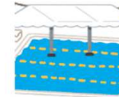
- ・ 階段をエレベーター、エスカレーターにすることについて  
メリット...障がい者の人も健常者の人も楽に使える、  
けがをした人が保健室に行きやすくなる  
デメリット...ばく大な費用がかかる、場所の確保が大変

→障がい者の人やけがをした人が快適に利用することができるため、一部の学校から少しずつ実現してほしいと提言する

## (5) E グループ「運動・遊び・健康の環境づくり（校庭・遊具・プール・雨の日の遊び場確保など）」

### わたしたちが考える未来の学校（プール）

- ・季節や天候に関係なくいつでもプールに入れる
- ・入りやすいようにプールの温度を調整可能にする
- ・日焼けしない
- ・プールの衛生面を管理
- ・虫が入ったとしても一か所に流れて集められるようにする
- ・水が飲めるウォーターサーバーを設置



### わたしたちが考える未来の学校（遊具）

- ・日差しで熱くならない
- ・持ち手がすべらない
- ・遊具の運動による熱で発電
- ・水を撒いてその部分を冷やし
- かつ撥水できる素材
- ・今の学校にない遊具



しやすくするという点に目を向ける！

### わたしたちからの提言（プール）

- ・4, 5校が一度に使える大きい屋内プールを一個作って共同で使えるようにする  
学校どうしで一緒に使う
- ・温水の設備  
入りやすくするために温度調節機能をつける
- ・プールにウォーターサーバー設置  
水分補給をして熱中症を防ぐ



### わたしたちからの提言（遊具）

- ・金属ではなく、部分的に熱が伝わりづらい素材にする  
※全体を覆うのではなく、持ち手だけなど部分的（→コスト面から）に  
例えば滑り台、鉄棒、ジャングルジム、ブランコ
- ・冷やすために水をかけて、濡れたままにならないように水をほじく素材にする
- ・屋根をつける

## (6) F グループ「学校同士の交流について」

### ◎イベントを実施すると、交流が増えるのではないかな

【知る】お互いの学校のことを知って、良いところを取り入れたり、改善したりする

【行事】お互いの地域の文化を知ることができる

（例）〇〇小の近くには～というスポットがある

知る（現実的、できそう）→行事（ここが最終目標）

## わたしたちが考える未来の学校

### ①zoomで学校のことを発表し合う

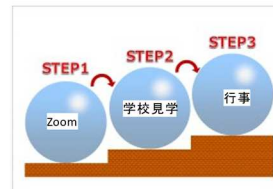
- ・近くの学校2・3校で行う
- ・自分の学校をよくするために、他の学校から視点をもらう

### ②学校見学をする

- ・授業、SDGsについて
- ・対面じゃないとわからないこと、Zoomで話したことをもとに聞きたいこと

### ③行事を行う

- ・楽しく「知る」  
（例）クイズ大会、合唱・合奏する



## わたしたちからの提言

- ・交流の機会を創る  
→授業の進行に支障が出ないように
- ・バスの移動費を負担  
→隣同士が遠い小学校だと、移動が大変